

# ちょっと読んでみませんか（令和三年春彼岸）

## 第58話『鬼神となった仏さま』 ～本源寺副住職 本間健司

プリントやハガキにてご案内していますように、本年は、日蓮聖人の御生誕800年の聖年に当たり、2月16日の正当日には、生誕の地であります千葉県小湊の誕生寺にて、日蓮宗挙げての大法要が行われました。

その模様はインターネット（YouTube）で中継され、今でも動画で観ることが出来ますので、興味のある方は是非ご覧になってみてください。

さて、長く続くコロナ禍のなかで、家で過ごす時間が増え、一人で思い悩むことが増えたと感じている方も少なくないかも知れません。

先日、ふと手に取った本の一ページに、以前このプリントでも取り上げさせて頂いたことのある上甲（じょうこう）晃さん（松下政経塾長）の手記の一節が掲載されていました。《マザーテレサの言葉に常々深い感銘を受けていた私は、この人に会いたいという思いを募らせ、ついに後先考えずにインドのカルカッタへ渡りました。彼女に直接、どうしても聞いてみたいことがあったからです。》

運よく、カルカッタの礼拝堂でマザーテレサに面会することのできた私は、尋ねました。「どうしてあなた方は、あの汚い、怖い乞食を抱きかかえられるのですか?」と。

マザーは答えました。

「あの人たちは乞食ではありません。イエス・キリストです。イエス・キリストは、この仕事をしている私が本物かどうか、そして私が本気かどうかを確かめるために、私の一番受け入れがたい姿で私の前に現れるのです」と。

マザーの言葉を伺った瞬間、目から鱗が落ちる想いでした。私が松下政経塾で、あんな人は辞めてほしいと思っていた塾生が、実はイエス・キリストであったことに思い至ったのです。

自分はこれまで、他人を変えようとするあまり、どれほど人を責めてきたことだろうか。しかし、いくらそれを続けたところで人を変えることは出来ない。人生でただ一つ、自分の責任において変えられるのは自分しかない。常に問われているのは、自分から変わる勇氣を持てるかどうかだ。

このことに気付いた途端、心が晴れ晴れとしてきたのです。》

マザーテレサの言葉は有名ですからご存知の方もいると思いますが、上甲さんが直接マザーテレサに逢いに行かれたことに大変驚きました。そしてまた、上甲さんが得られた気付きの内容が、私の人間関係の悩みに大きなヒントを与えてくれました。

身近に関わる人がイエス・キリストであると受け止めたマザーテレサ、そして、そのことよって「変わる勇氣」に気付かれた上甲さんでしたが、実は、日蓮聖人のご文章の中に、「仏様が姿を変えて修行者を導いてくれる」という教えがあります。

それは『雪山童子(せっせんどうじ)』という修行者の物語なのですが、私がとても感動した話です。簡単に紹介したいと思います。

昔、雪山(せっせん)という山に『雪山童子(せっせんどうじ)』と呼ばれる一人の男が住んでいました。

その男は、木の実や山菜を食料とし、鹿の皮を着物としながら、一人静かに仏道を行っていました。この男がいつも思うことは、「人は皆いずれこの世を去り、冥途の旅路をたった独りで歩まねばならない」という「生死無常」のことでした。

そんな雪山童子の前に、髪は炎の如く、齒は劍の如く、目を怒らせ恐ろしい風貌をした大きな鬼神が現れ、「生死無常」を乗り越えるための大切な教えの半分だけを説くのです。

しかし、残りの半分を教えるには一つ条件があると言います。

それは、「お腹がすいてどうしようもないから、お前(童子)の血肉を俺によこせ。お前が本気で教えを聞きたいならそれぐらいのことは出来るだろう！」と修行者である童子に迫ったのです。

童子はへいずれこの身は死すべきもの。ただ無駄に死ぬよりは、この汚れた身を仏法のために捧げよう。そうすれば、功德によって来世は仏の清浄な身と受けることになるかも知れないと、決意をしたのです。

童子は、鬼神から教えを聞いた後、木から飛び降りて約束通り身を捧げようとしたその瞬間、鬼神は、仏教守護神である帝釈天(たいしゃくてん)の姿となり、童子を褒め称えたのです。

実は、この雪山童子こそが、お釈迦様の過去世での修行者のお姿であったというお話です。

自分の身を捨てても教えを求めるといふ決意をしたからこそ、お釈迦様は後世で悟りを得ることが出来た。そこに導いたのは、鬼神に扮した仏様の導きがあったというわけです。

『法華経 如来寿量品』には、

にょらいじゆりようほん

『私(仏様)は、あなた方一人一人の様子を見て、様々な姿かたちや手段を取りながら、あなた方を仏道へと導くのです。』  
というとても大切な教示があります。

大きな悩みや困難にぶつかった時、人と激しく衝突してしまった時、それはまさに“鬼神”に遭遇したような苦しみを感じることにさえあることでしょう。

でも、それは“鬼神”の姿を取った「仏様の慈悲」に導かれているのかも知れない、というのが『法華経』の教えなのだと思います。

さすがに自分の血や肉を捧げることは出来ませんが、仏様からのお導きならば「人を  
変えることをやめて、自分から変わる勇氣」は持てるかもしれない。私はそう感じまし  
た。

御降誕800年を迎えられた日蓮聖人の御魂に、あらためて感謝の祈りを込めて：

合掌 南無妙法蓮華経 南無妙法蓮華経 南無妙法蓮華経